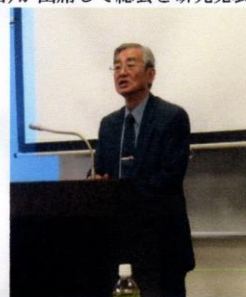


平成25年度 総会と研究発表会 開催

4月6日（土）別府市ニューライフプラザで、会員64名（内委任状24名）が出席して総会と研究発表会が開催されました。はじめに中村茂会員が24年度の野鳥調査で、野焼きの後、草原性の鳥が増加傾向にあることの報告があり、小田毅理事が昨年度実施した、観察道の整備や湿原植物の保護活動でミミカキグサ類など貴重植物が再確認されていることの発表がありました。いずれも興味深い内容でした。

総会では川野理事長のあいさつのあと、2月に行った野焼きは範囲を広げて県道から南側の湿地全面に火入れしたが、乾いていたヨシ原を焼き尽くし湿原の全景が県道から見渡せるようになったことなどの事業報告、その作業に要したロープ代、草刈り機の燃料代などの会計報告と監査報告が行われ承認されました。そして今年度は第3回の野焼きを来年2月23日（日）に



あいさつする川野理事長

行うとの計画が提案されました。会員数も少しずつ増えてきましたので、これからは活動の内容や作業の進め方を組織化して効率の良い運営が必要になってきそうです。

会員のアイデアや意見を取り入れて、社会に存在感のある活動をすすめるNPO法人として歩んでいきたいと思っています。



野鳥調査の研究発表

サクラソウの保護柵設置作業

今年は野焼きの面積を広げたので、いっそうサクラソウが目につくようになると思われます。

湿原内に立ち入ることなく可憐な花を見てもらえるよう、群生地にロープを張ることにしました。

4月13日に支柱に使う青竹を切り出して1.7mの長さに切りそろえ、午後から踏みつけが心配される、県道近くの群生地に切りだした青竹を支柱にして、PPロープの囲いをつくりました。



支柱の青竹切りだし作業